

『貧血』のおはなし



2024年10月から血液内科に入職しました安永と申します。愛媛県出身で、東大病院などに勤務してきました。地域のみなさまにお役立ちできるよう努めてまいりますので何卒よろしくお願いいたします。

血液内科医長
やすなが めぐみ
安永 愛



貧血について

採血でヘモグロビン値が低い(男性 13.0g/以下、女性 12.0g/d以下)ことが貧血の定義です。ヘモグロビンは赤血球の中にあり、酸素を全身に運搬するため、低下すると、酸欠のような症状が出ます。動悸、息切れ、めまいが主な症状ですが、慢性的な経過の場合にはあまり症状が出ないこともあります。



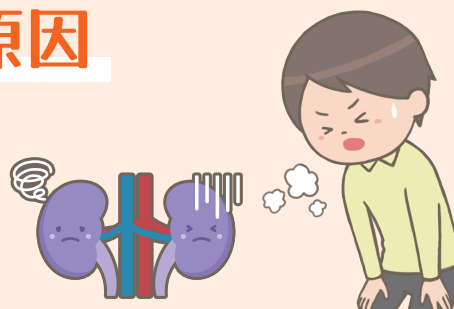
貧血の主な原因

1. 赤血球が作れなくなる

鉄分・ビタミンB12・葉酸・亜鉛などが不足することにより貧血となります。ビタミンB12は胃の病気などにより、十分に吸収できなくなることがあります。

腎不全では造血ホルモンが低下して貧血となります。慢性的な炎症や甲状腺の機能低下によっても赤血球を作る力が低下します。

骨髄の病気で正常な赤血球を作れなくなることがあり、高齢化にともない、骨髄異形成症候群や多発性骨髄腫といった疾患が増えています。診断のために骨髄検査を行うことがあります。



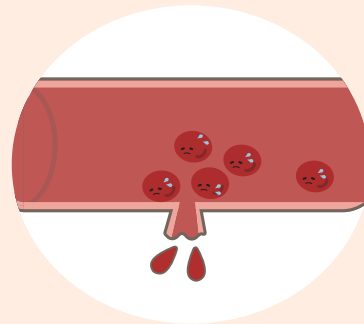
骨髄検査の様子

2. 赤血球が壊されてしまう

赤血球を壊す抗体や、先天的な赤血球の形の異常、心臓に人工弁が入っていることなどによって赤血球が壊されて貧血となります。

3. 赤血球が外に出てしまう

外傷、月経や消化管からの出血などによって赤血球が失われることにより貧血となります。



貧血と言われた場合や、症状がある場合には、当科で詳しい検査や治療を受けることが可能ですので、ぜひご相談ください。



H
P
血液内科
5